

平成17年度区の課題について

No.2	溝口駅南口周辺地区の総合的整備
課題の概要	<p>区を中心であり市の拠点でもある溝口駅周辺は、北口地区の再開発が平成10年度に完了したが、南口地区については公共基盤整備が大幅に立ち遅れ雑然とした街なみのまま現在に至っている。19年度から2カ年計画で南口駅前広場の整備が予定されているが、新総合計画の基本施策である「個性ある利便性の高い地域生活拠点の整備」を行うためには、駅前広場の整備事業を中心とした拠点機能向上への取組だけでなく、周辺地区を含めた南口地域一帯の整備に総合的に取り組んでいく必要がある。</p> <p>そのためには、全国でもワースト5となっている放置自転車問題への対応やバリアフリーの推進など広範な利用者層に対応した駅前空間の整備をはじめ、周辺の自然環境や文教ゾーンにふさわしい景観の形成、歴史・文化的資源の保全、活用など解決すべき課題が輻輳している。</p>
現在までの経緯	<p>1 16年度に『溝口駅南口周辺地区整備基本構想調査』を実施するとともに、庁内関係局からなる「溝口駅南口周辺地区整備検討委員会」を設置。</p> <p>2 上記1において、地区の現状及び動向を把握し、課題の整理と課題解決に向けた条件整備、調整等を行った。また、今後のまちづくりの指針を定めるとともに、それに基づく個々の課題について具体的な事業の推進に向けた基本方針(案)の策定を行った。</p>
区役所の対応方針等	<p>『溝口駅南口周辺地区整備基本構想調査』で位置付けた5つの「重点課題の基本方針」(別添)のうち次の事項について、関係局からなる検討委員会を活用し総合調整及び事業推進に向けた取組を行う。2及び3については、関係住民へのヒアリングや区民参画によるワークショップ等を併せて実施し意見集約を図り行政計画への反映を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 駅前広場工事で消失する駐輪スペースの確保 鶴見溝口線の道路機能の見直し 景観に配慮した地区プランの検討(駅前広場、野川柿生線及び三角地) <p>その他、駅前斜面緑地の適切な土地利用の誘導及び岡家跡地の公園化については、別途の打合せ会議及び設計ワークショップを活用する</p>
関係局の支援・連携方策	<p>環境局 野川柿生線沿道(駅前から岡家を経て洗足学園まで)について、花と緑のうらおいのある景観づくりに向けて面的な緑化などを区役所等との連携の中で推進する。</p> <p>まちづくり局 景観形成に向けた方策の検討など関係局の取組を支援する。</p> <p>建設局 消失する駐輪スペース(約千台分)の確保に向けた検討を行う。 鶴見溝口線について、道路整備のあり方の検討を行う。 野川柿生線沿道について、街路緑化を推進する。</p>
備考	<ol style="list-style-type: none"> 19年度～20年度南口広場整備(用地取得率約8割)。 17年度岡家跡地設計ワークショップ、18年度公園整備予定。 20年3月、東急溝の口駅に大井町線乗入れ予定。 溝口駅(JR+東急、14年)の平均乗車人員は1日あたり145,446人、乗降客数はその2倍。 都市マス区民提案、議員要望あり。

たかつ花街道

